

アメリカで学んだこと。

田原市の中学生11名と引率3名の計14名の皆さんが、9月30日（木）～10月9日（土）の10日間、姉妹都市であるアメリカ合衆国ケンタッキー州ジョージタウン市と、友好都市のインディアナ州プリンストン市を訪問しました。現地では、ホームステイや学校での体験授業などで交流を深めました。ここでは、視察団の皆さんの感想をご紹介します。（敬称略）



プリンストン市長（中央）と視察団の皆さん

団長「赤羽根中学校長」

みやがわとしひこ
宮川敏彦

平成2年から始まったジョージタウン市への中学生訪問は、今回大きな意味を2つ持っていた。それは、田原市となって初めてであること。さらに、赤羽根中学校が加わり、訪問先にプリンストン市も加わったことである。

ジョージタウン、プリンストンでは、皆さんの学校を見せていただいた。アメリカでの学校教育は「社会に出ても十分やっていける力をつけさせる」「自立」というのが共通理解のようだ。小学校では基礎をしっかり教え、学年が上がるとつれ選択教科が増え、自分の未来に向かって学ぶ生徒の姿を見ることができた。田原の生徒たちは、ホームステイを通して、国際感覚や自分の考えをしっかりと相手に伝える重要性など感じ取ってくれたと思う。

引率主事「教育委員会」

みなたけせいいち
三竹清一

平成14年8月に友好都市提携を結んだプリンストン市へ、今回初めて中学生海外派遣団が訪問した。プリンストンでは、多くの学校を見学させていただいた。先々での大歓迎に感激するとともに、各学校の特色ある教育活動を目の当たりにし、日本の学校や文化との違いを改めて学ぶことができた。

市庁舎への表敬訪問でも心温まる歓迎を受けた。シェルリー・ロブ市長から一人一人に記念品をいただいたほ

か、市議会議場で行われた友好都市調印の様子を市長から直接説明を受けた。バレーボールやフットボールの試合観戦にも招かれ、会場において我々が友好都市の派遣団であることを紹介されると、観衆の拍手喝采を浴びるという場面もあった。

こうしたプリンストンの熱意に深く感銘を受け、現地で今後の交流活動について直接意見交換することができると、友好関係をより一層深めることができ、大変有意義な訪問であった。

引率教諭「田原中学校」

なむちゆりえ
内藤理恵

朝、車窓から見た湖に立ち上る霧や牧場を駆ける馬の姿……。実際に目で見たジョージタウンの広大でさわやかな緑は、これまで幾度となく見た写真よりもはるかにすばらしく、その景色に何度も感動しました。

今回、さまざまな学校の見学により、生徒の視点に立った学校や教師の工夫を知ることができました。また、アメリカの学校は日本と比較して生徒に自由があるものの、その代わり一人一人に責任や課題も与えられていることは、現地で体験しなければ分からなかったことでした。

この10日間、たくさんの自然、そしてアメリカの人々の温かい心に触れたことで、私の心にたくさんの刺激と栄養をもらいました。